



# ♪ 宗次ホールおすすめ公演情報 2017年1月♪



チケットのご予約は 宗次ホール チケットセンターへ 052-265-1718(営業時間10:00-18:00)

新年あけましておめでとうございます！ 昨年も宗次ホールをご愛顧頂き誠にありがとうございました。2017年1月3日から5日までは1日2公演のニューイヤール・スペシャル！ おすすめ公演目白押しです♪ 本年もどうぞ、よろしくお願い申し上げます。

【文責:宗次ホール企画担当 廣田 政子(ひろた まさこ)】

**「素晴らしい技巧、知性に溢れた豊かな解釈！  
これ以上の演奏を聴いたことはない」**  
-BBCミュージックマガジン

**「ロジェの音楽を聴くと、別世界に連れて行かれる」**  
-ピアノ・マガジン誌

言わずと知れた名手 **パスカル・ロジェ** ピアノ

**1月17日(火)18:45開演 4,500円(学生2,700円) [指定]**



ロン＝ティボー国際コンクールで優勝以来、2度のグラモフォン賞受賞などを経て世界中で活躍するフランス人ピアニスト。フランス作品ばかりでなくブラームス、リスト、バルトークなど幅広いレパートリーをお持ちですが、今回はオール・フレンチ・プログラム。

「若いころはあらゆる作品を片っ端から弾いたけれど年齢を重ねた今、再びフランス作品に戻ってきた」と、お話されます。

ロジェさんは普段身に着けるものがとてもお洒落！「服装というものはその人のキャラクターを反映するもの」というお考えで、シャツとタイの色の組み合わせを考えたり、『色』については昔から非常に強い関心があるそう。そしてフランス音楽には豊かな色彩があり、それぞれの作品が同年代の絵画からも少なからず影響を受けていることから、絵を見ることも欠かせないそうです。

「ラヴェルは、音全体がクリアで透明感に満ちている。フランス作品はよく、もやもや霧がかかった絵のようだとされますが、私はもっとクリアな響きをもっている音楽だと考えています」…確かに、イギリスのインディペンデント誌によるロジェさんの評に、「ペダルを多用して“印象派らしい音楽”を創ろうとするピアニストが多い中、音楽をきちんと形作り、たゆませることなく、和声の移ろいの瞬間を味わい尽くすロジェの演奏のなんと心地よいことか」というものがありました。モネの絵画にしても、淡い色彩を用いながらも輪郭はあくまでも明瞭であることをロジェさんは指摘されます。そしてプーランクとサティは印象派ではなくキュービズムの影響を受けているのでは、と。その表現はペダリングを駆使して音色に変化をつけます。

詩を愛し、ドビュッシーの作品は俳句を連想させると話すロジェさん、「ハーモニーは色彩であり、フレーズは風景画」と表現。ただ楽譜通りに弾くだけでなく、作曲家がその時代何を見てどこに住んでいたのか。何を読み、どんな音楽や詩がその時彼の周りにあったのか、そしてどのような環境の中で作曲されたか、その背景を理解することが大切だと仰います。その思想はロジェさんを唯一弟子として教えた名ピアニスト、ジュリアス・カッチェン氏からの「ピアノから離れなさい。美術館に行ったり、郊外に出向いて自然に触れたり、常に自分自身でいることを心がけなさい」という重要な指針からの影響だそうです。

インターネットやスマートフォンが普及した今、世界中の情報や知識が“すぐそこ”にあるにも関わらず、若い世代の文化や世界に対する興味の範囲が狭まっているように感じるとロジェさんは指摘されます。

自分のリサイタルでは、超絶技巧の曲よりもフランス音楽独特の音や色彩を聴衆の皆様と共有できる、「旅」をしているようなプログラムをいつも考えているという彼。フランス作品の解釈には絵画、料理、ワイン、自然が不可欠だと話す通り、まさにロジェさん自身が聴いて、見て、味わって自分の血肉にした芸術を享受することができそうです。

**「聴き手をその作品の内奥へと  
一気に引き込んでしまう強い引力」** 伊熊よし子

**山本 貴志** ピアノ

**1月21日(土)18:00開演 3,500円(学生2,100円) [指定]**



2016年3月にヴィオラのエイドリアン・ラ・マルカさんとの共演で来演されて以来、そして5年半ぶりのソロ・リサイタル！ ショパン作品も多く組まれたプログラムであることから、2005年にショパン国際ピアノコンクールで受賞されたときのことが思い出されます。この時の山本さんはまだショパン音楽院3年に在学中。睡眠・

食事・練習と全てしっかりとれた為、殺伐としたコンクールというよりもちょっと豪華な演奏会の様だったと振り返ります。緊張感が高まるコンクールの場でもこんな自然体を保つことができる山本さんは、やはりコンクールの時も非常に人気があり、終演後の楽屋はいつもファンで溢れていたそう。

ショパンは、好きという感情を超えて、自分に不可欠と表現される山本さん。ショパンの“メランコリック

クでか弱い”という印象は真逆のもので、実は芯が通っていて頑固、融通が利かない性格だったのではないかと分析されます。それは曲を弾いていても曖昧なところが一つもないから。練習をしている時にも、ショパンの作品こそが自分の心の状態をひとつひとつ拾って反応してくれるので癒されると仰います。

先のロジェさんの考えとも重なりますが、山本さんも小学3年生の頃から当時の先生に「ピアノの前に座って弾くだけでなく、美味しい物を食べたり、綺麗な物を見たり、旅行に行ったりすることによってピアノの音も変わってくるから、色々な経験をして下さい」と教わったそう。

感受性豊かなショパンとラフマニノフをどうぞお楽しみください！

**「バラティの演奏に我々は釘づけになった」**

-ヴァルピエ音楽祭より ストリング・マガジン誌

**クリストフ・バラティ無伴奏ヴァイオリン**

1月24日(火)18:45開演 4,000円(学生2,400円)【指定】



音楽家の両親のもとに生まれ、子供の時からまさに遊ぶように楽器に触れていたというバラティさん、漫画やサッカーを差し置いてもヴァイオリンを弾きたい子供だったそう。

今回はバッハとイザイの無伴奏プログラム。演奏家である前に一人の人間であること、そして偉大な作曲家達

も血の通った人間であったことを聴衆の皆様感じてほしい、と話します。

音楽以外には飛行機が趣味で、なんとパイロットの免許も持っているというバラティさん！なんでも、飛行機を愛するヴァイオリニストって多いそうです。たった“独り(ソリストとして)”で皆の“上空(高い音域)”を、いかなるときも“危険(ミス)”と隣り合わせという状況で“操縦(楽器を操る)”する点などが、小型飛行機の操縦とヴァイオリンの演奏との共通点だと！もちろん尋常ではない集中力を要するところも。飛行機は完全に自分の手で操縦できるところ、そして全く違った大きな視点から世界を観る事が出来るところが、大好きだとバラティさんはお話されます。そしていかに美しく滑らかに着陸できるか。そこもまた毎回の“素晴らしい挑戦”だそう。ヴィルトウオーズなフレーズを弾いた後の美しい締め方を思わせます。

今回のプログラムは今年のバラティさんのNYカーネギー・ホール・デビューとほぼ同じプログラム。「勇敢で慎まじやか、一線を画した、まさに“壮観”」と評された演奏、お聴き逃さないように！

**お得なスイーツタイムコンサート！**

13:30開演 2,000円 自由席 ※終演15:00予定

プレゼントチケット(ギフト券セット購入のおまけ等)2枚で入場可能

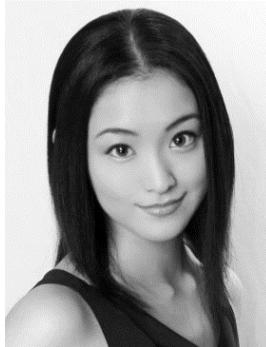
★チャリティーシート(指定席)AB列中央付近23席限定

スイーツタイムコンサートは、これからクラシック音楽をじっくり聴いてみたい、夜は出かけづらいので昼間に本格的な演奏を楽しみたい、という方にぴったり。国際的にも活躍するベテラン演奏家から気鋭の若手まで、2,000円ではお得すぎるほどの素晴らしい演奏家達です。ご期待下さい！

**“坂本真由美は、中毒になりそうな音楽の香水を作り出した。神秘的で魔法のような…”**

スターテレグラム紙、アメリカ

1月22日(日) 坂本 真由美 ピアノ



1983年神奈川県生まれ、ご両親は音楽家ではなかったそうですが家ではいつも音楽が。3歳の時に何か習い事を、ということでピアノを始めたのがきっかけ。

中学校に入って音楽を本格的にやろうと決めるまでは勉強の方が好きで、特に戦国・江戸末期が大好きな「自称“歴女”です」と仰います。西洋音楽であるクラシックを演奏する上で比較として日本文化を学ぶこと、その歴史や宗教、文学を切り離して考えることはできない、と演奏の糧にされています。そんな視野の広さが演奏の構成力の高さに滲み出ているようです。「彼女の力量に、欠点はいまだ見当たらない」(フォートワース・ウィークリー紙)と言わしめるその演奏を是非、生でご堪能下さい。

**「テクニックは完璧**

**一瞬にして雰囲気を変えてしまう演奏能力」**

グリーンブランド国際クラシック・ギター・フェスティバル

2月9日(木) リカルド・ガジエン ギター

8つの主要国際ギターコンクールで全て優勝という驚異的な演奏家。驚くべきテクニックの持ち主ですが、ご自分のことを「人生をより複雑にする名人(笑)」と表現される通り、本来ピアノやオーケストラの為に書かれた作品を可能な限りオリジナルに近づける為、普通では考えられない指使いを積極的に採用。目標とするサウンドを創るために指が足りないとなれば左手の親指でも、鼻でも(!)身体の全てを使って弦を押さえると言い切るお方です。

耳から聴いた音楽を自分が持ち合わせた「知識」や「テイスト」によって意味あるものに「変換」していく。「そう、音楽とは心理学だ！」とガジエンさん。現代のクラシックギター界において最も重要な一人である彼の実演に触れてみてください。

チケットのご予約・お問い合わせは

宗次ホールチケットセンターへ

☎ 052-265-1718(10時~18時)

1月1日・2日は休業、3日から通常営業です